

TAMIYA vol.184 Jr. News



1/1 GIANT MINI 4WD PROJECT

～1/1ミニ四駆実車化プロジェクト～

1/1スケール「エアロアバンテ」誕生。

実車「エアロアバンテ」の作り方



1/1スケール「エアロアバンテ」誕生。

多くのミニ四駆レーサーが見守る中で走行する姿を披露した
 話題の「1/1エアロアバンテ」を今回は大特集だ。
 他を圧倒する迫力のスタイルを
 キミはもうチェック
 したかな?

1/1 GIANT MINI 4WD PROJECT

※1/1ミニ四駆エアロアバンテ実車化プロジェクト発表会での走行シーン (お台場・MEGA WEB・10月18日)

名車「アバンテ」が実車へと進化。

「アバンテ」は1988年にタミヤのRCカーとして誕生し、その後ミニ四駆化され、名前を引き継ぐマシンが多く登場している名車。その最新マシン「エアロアバンテ」が、今回の実車化のモデルとして採用されたのだ。



1/1 実車サイズ エアロアバンテ

長い歴史を重ねるマシンそれが「アバンテ」。

ミニ四駆の最初の「アバンテ」は1988年に誕生したアバンテJr.。以来10数種類が登場した長い歴史から得たデータをもとに、さらに性能を追求して誕生したマシンが「エアロアバンテ」なのだ。



1/32 ミニ四駆

(Item:18701) 972円

1/32 ミニ四駆 REV エアロアバンテ

●今まで登場したミニ四駆のアバンテマシンの一部



レーサーミニ四駆 アバンテJr. 1988年12月発売

ミニ四駆PRO アバンテMk.II 2006年6月発売

ミニ四駆PRO アバンテX 2006年12月発売

1/1ミニ四駆実車化プロジェクトとは?

「ミニ四駆を実車にする」という夢が現実になるビッグプロジェクト。車作りのプロが集結して1/1マシンが誕生したぞ。製作中の動画も現在配信中だ。



ミニ四駆HPで動画をチェック!



1/1 実車

1/1実車と1/32ミニ四駆、マシンを比べてみよう!

マシンのサイズは大きく違っても、実車はミニ四駆の持つ持ちようを生かして製作されているから、仕上がりはまさに「エアロアバンテ」そのものだ。1/1サイズになったミニ四駆が走行する姿は迫力満点。キミもぜひ実際に体感してほしい。



1/32 ミニ四駆

★1/1実車エアロアバンテ



295/30ZR22

KMC XD801 CRANK クローム 22インチ

パイプフレームシャーシ

サイドステー

リヤスキッドバー

★1/32ミニ四駆エアロアバンテ



26mmローハイトタイヤ

13mm 低摩擦ローラー

5本スポークホイール (シルバー)

ARシャーシ

サイドステー

リヤスキッドバー



まだまだあるぞ! 実車になったマシン達

実車化を遂げたマシンはエアロアバンテ以外にもミニ四駆とRCカーに存在するぞ。どちらも目立ち度満点の仕上がりのだ。



1/32フルカウルミニ四駆ガンプラスターXTO (Item:19419)

岡山おもちゃ王国にて展示中

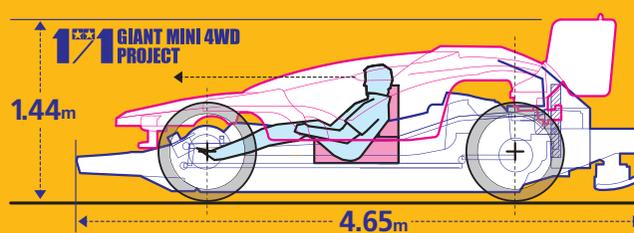


1/10電動RCカーワーゲンオフロード (Item:58452)

タミヤ本社ロビーにて展示中

実車“エアロアバンテ”の作り方

今、注目を集める実車“エアロアバンテ”は、車作りのプロフェッショナルがこのプロジェクトのために集合。各スタッフが協力して作られた本物のレーシングマシンなのだ。単純にサイズを32倍にしただけではなく、細かな所までこだわりぬいて製作されている。ここでは、そのプロセスをじっくりと紹介するぞ。



ミニ四駆・エアロアバンテを参考に、実際にドライバーが運転できるようにボディ、シャーシ、タイヤなどの大きさやバランスを細かく調整しながら設計されている。これが実車になってもアバンテの持ちようが活かされている理由だ。

《車両サイズ》★1人乗り
★全長×全幅×全高：4.65×2.80×1.44 (m) ※前後バンパー含む

1 マシン構造を支えるシャーシを作る



まずシャーシの設計図を作成。それをもとにベースとなるフレームシャーシの使わない部分を切断し、必要な部分は溶接してじょうぶな構造を作る。人が運転する位置、アクセルペダルの配置など、最適なポジションを決める最初の工程だ。

ミニ四駆の実車ができれば嬉しい。一生懸命に作ります！

《スペック》 ■サスペンション：コイルオーバーサスペンション ■タイヤ：295/30ZR22 ■ホイール：KMC XD801 CRANK/クローム/22インチ



2 エンジンなどの駆動系を整える



シャーシにエンジンをとりつけ、その力をタイヤまで伝えるための駆動系を整備する。また、実車を運転するためのステアリングやシート、アクセル、ブレーキなども調整して、しっかりと運転ができる状態にしあげるのだ。

しっかりと走って曲がって止まる実車をミニ四駆に近づけて正確に作りたいです。

《スペック》 ■エンジン：4ストローク強制空冷水平対向4気筒OHV/1600cc/シリンダー数4/最高回転数：7000回転/キャブレター式ガソリン燃料 ■ギア：ギア数・前進4速・後退1速 ギア操作/手動操作 クラッチ・ノーマルクラッチ ■シート：フォーミュラカー用バケットシート



3 マシンの顔となるボディを作る



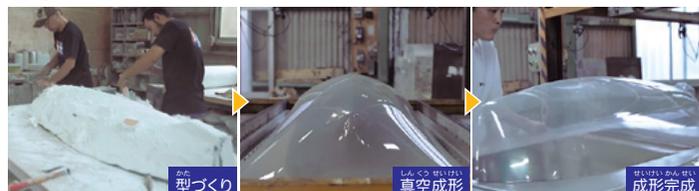
ボディ製作の元となる原型を発泡スチロールで作る。ボディラインを描き込みながら、切って削って整えてマシンイメージに近づけていく。ミニ四駆をそのまま拡大するだけだと逆に小さく見えるので、ボディの持ちようをいかして形を調整しているぞ。完成後は型を作成し、ボディをFRPで成形するのだ。

子供達が見て喜んでもらえる車を作りたい。楽しみに待っていてください！

《スペック》 ■ボディ：FRP製/カーボンファイバー



4 コックピットのキャノピーを作る



操縦するドライバーの視界を確保し、走行風を避けるためのキャノピーを製作。山のようなエッジが前後に走る形を再現するため、型を作りポリカーボネートの板を真空成形という方法で立体に。これはミニ四駆のクリアボディと同じ作り方なのだ。

誰が見てもカッコ良く、乗ってみたいくなる車を作りたいです。

《スペック》 ■キャノピー：ポリカーボネート製



5 ボディのカラーリング塗装



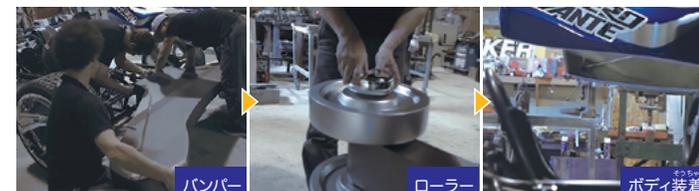
ボディにサーフェイサーを吹いて下地の調整をしたら、塗装しない所はマスキングテープで保護。塗料を調色して一気に塗装するぞ。ボディの曲線が映える透明度の高い塗料を使ったり、ハンドペイントなどのこだわりがギッシリだった特殊塗装だ。

ボディ形状のラインをキレイに出すためにこだわってペイントしました。

《スペック》 ■ボディ：ウレタン塗装、カスタムハンドペイント



6 シャーシとボディを組み立てる



すべての部品が完成したら、ていねいに組みつけてマシンを完成させる。ミニ四駆のバンパーやローラー、リヤのボディキャッチまで、細かな部分もリアルに再現されているからサイズが大きくなっても“エアロアバンテ”そのものなのだ。

皆の魂が入った妥協のないモノづくりができました。ワクワクするマシンです。

《スペック》 ■ボディ：FRP製/カーボンファイバー



完成したマシンを走らせてみよう！

完成したマシンを眺めるだけでも迫力は満点だが、実際にエンジンを始動させ、走る姿はそれを上回る圧倒的な存在感。ぜひその姿をキミの目で体験してほしい。

国際A級ライセンスを持つレースドライバーが操縦。



1:多くのミニ四駆ファンに見守られて、いよいよ走行のコースへ。
2:ドライバーがいざコックピットへ。取材カメラもいっばいだ。
3:迫力のサウンドと走りで見客から驚きの歓声があがったのだ。

★ムービーでチェック！

マシンの製作過程や走行シーンはこの専用Webサイトで見れる。必ずチェックしよう！

<http://tamiya-sp.com/>